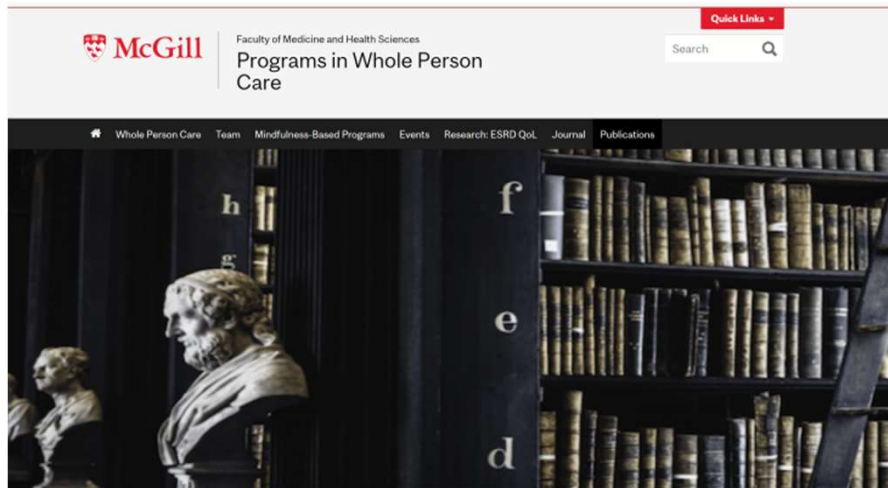


Whole Person Careとは？



1

カナダ モントリオール



2

マギル大学の緩和ケア (Palliative Care) の歴史

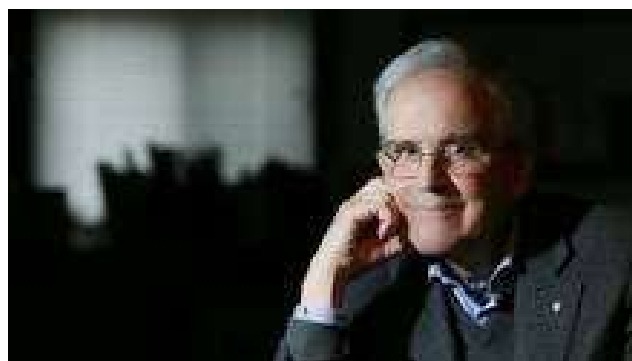
- ・“緩和ケア (Palliative Care)”という言葉は、バルフォア・マウント教授が最初に提唱
- ・終末期医療 (ターミナルケア、ホスピスケア) におけるすべてのケアは、学術的に探究され、実践されなければならない (質の保証)
- ・1975年に世界最初の“緩和ケア病棟”がマギル大学のロイヤル・ビクトリア病院内に設立



3

マギル大学 バルフォア・マウント教授

“The Father of Palliative Care in North America”



1975年 マギル大学の大学病院のなかに積極的な治療が困難となったがんや慢性疾患に苦しむ患者のケアのための専門病棟を設置

“緩和ケア病棟”と名付けた

4

国際緩和ケア学会(モントリオール)



バルフォア・マウント教授
“The Father of Palliative Care in North America”



5

マギル大学病院 緩和ケア病棟



6

Whole Person Careとは？

Whole person care: Beyond psychosocial and physical needs

Balfour Mount, MD

It is now a quarter of a century since Dame Cicely Saunders carefully and thoughtfully laid the foundation of palliative medicine and hospice care. She started the first center for the care of the dying to place equal priority on patient care, research, and teaching. For this, both St. Christopher's Hospice and Cicely deserve a footnote in medical history. She introduced the concept of total pain as a model for understanding chronic pain in the cancer patient, and in so doing, went on to draw attention to the diverse variables that influence the pain threshold.

The patient who is restless, upset, anxious, fearful, angry, or depressed

would be unable to attend a family wedding, his pain returned. We are whole persons. Our experience of pain is modulated by variables arising in each domain of human experience.

When I visited St. Christopher's in September, 1973, Dame Cicely Saunders was advocating whole person care in the tradition of William Osler and the Swiss physician Paul Tournier. In the ensuing years she certainly has not been alone. Those developing and directing primary health care teaching programs and oncology services are increasingly recognizing the need to redress the balance in medical care. There have been a number of primary

careful observer of the human scene and an excellent writer, demonstrates a marvelous clarity in his perception of how we interact with disease and what modifies that interaction. He brought us, *Awakenings*, *The Man Who Mistook His Wife for His Hat*, and *A Leg To Stand On*. In a paper that we should all read, Wasserstein⁷ summarizes what is special about Sacks' observations.

All of these individuals advocate *whole person care*, a "milk and motherhood" issue, the kind of concept that we give verbal support to, but what does it mean? How does it influence our perception, understanding, and acknowledgment of the needs of the patient?

Mount (1993), *The American Journal of Hospice & Palliative Care*

7

マギル大学の医学教育の歴史

- 1940's "Health and Social Medicine"
- 1969 "Behavior, Growth and Development"
- 1989 "Introduction to the Patient" (ITP)
"Introduction to the Practice of Medicine" (ITPM)
→ Small group teaching format
- 1994 Modified ITP and ITPM

Center for Medical Education (医学教育センター)

• McGill Working Group on
"Professionalism"
(Drs. Cruess & Cruess)

• McGill Working Group on
"Healing and Health Care"
(Dr. Mount and Dr. Kearney)

2005 "Physicianship Program"
(医療者の二つの役割: "Professional" and "Healer")

2013 MDCM curriculum (RCPSC, CanMEDS framework 2015)

(Physicianship Apprenticeship Manual for Osler Fellows, class of 2020)

8

トーマス・ハッチンソン教授



- バルフォア・マウント教授に師事
- 腎臓内科医
- 緩和ケア医
- 現在、Whole Person Care Program Director



Photo from the WPC HP (<https://www.mcgill.ca/wholepersoncare/whole-person-care-0>)



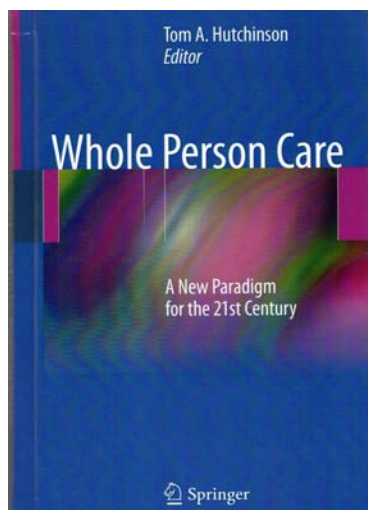
9

ハッチンソン教授が主催する マギル大学 Whole Person Care Program



10

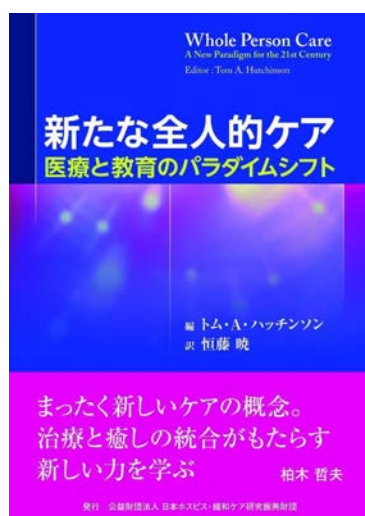
“Whole Person Care”を刊行



- ・Whole Person Care Program のメンバーを中心に2011年に刊行
- ・副題として:
A New Paradigm
for the 21st Century
(21世紀への新しいパラダイム)

11

Whole Person Care テキスト



- ・“Whole Person Care”の日本語訳版
- ・『新たな全人的ケア』副題:
医療と教育のパラダイムシフト

トム・ハッチンソン編、恒藤暁訳
発刊：ホスピス財団

12

Whole Person Careの主題

苦悩から患者を開放することが医療の根本的な目標であるとするれば、次の3つの方法があるだろう。

- 1) 苦悩の原因となる問題を解決すること
- 2) より視点を広げ、患者を全人として捉えること
(患者の背景、生活歴、価値観等)

“Cure”の視点

- 3) 問題を解決したり、理解しようとしたり、何かを行おうとしたりすることを第一の目的とはせず
“Healer”として、患者とともに“いま・ここ”にいること

“healer”の視点

13

日本Whole Person Care研究会



日本 Whole Person Care 研究会
Whole Person Care Association Japan (WPC-J)

I 設立経緯と概要

この度、日本Whole Person Care研究会を創設しました。Whole Person Careとは、カナダ・モントリオールにある、有名な伝統あるマギル大学 (McGill University) 医学部で開発された教育プログラムです。それは知識を必要とする「治療 (Curing) 」と知恵を必要とする「癒し (Healing) 」の統合を目指しています。これまでの医学教育では、診断・治療を中心に執ってきました。病気を診断・治療し、問題が起きた時にはそれらに対処し、悪いところがあったら元に戻すという問題解決型のアプローチです。この場合、患者は医療従事者に頼り、かは医療従事者にあります。しかし、これだけでは十分ではありません。癒しというもう一つのアプローチが必要となります。これは病気としっかり向き合い、病気と共に人間として成長し、悪いところを元に戻さない場合には、変化を受け入れることを支援することです。この場合、患者自身が力の源となります。癒しは、患者と医療従事者の関係性の中で促され、医療従事者がそれを支援することになります。これが癒しの概念です。Whole Person Careの教育では、治療と癒しの両方をバランスよく提供することのできる医療従事者を育てることが理想です。

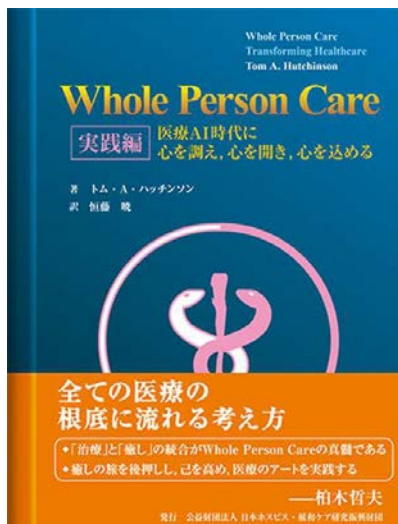
それでは、癒しとは何でしょうか。マウント先生とカーニー先生は、「苦悩と苦悩から高次元性、一体性そして心の平安に移行する人生の質の転換」と定義しています。人間は苦悩や苦悩があっても、それらを超越して成長する可能性を始めています。たとえ苦悩が治らなくても、苦悩や苦悩から十分には解放されなくても、成長、突破、自己実現をしていく、人生の質を転換することが出来る力を人間は持っています。それを癒しとしています。

HP URL : <https://www.hospat.org/wpcj-index.html>



14

Whole Person Care 書籍第2弾

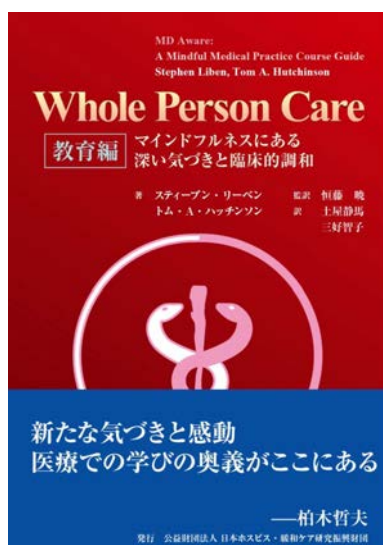


- ・『Whole Person Care 実践編』
医療AI時代に
心を調え、心を開き、心を込める

トム・ハッチンソン著、恒藤暁訳
発刊：ホスピス財団

15

Whole Person Care 書籍第3弾！



- ・『MD Aware』
A Mindful Medical Practice
Course Guide



16

一般社団法人
日本医学教育学会
Japan Society For Medical Education

会員専用ページ English

TOP 学会誌 論文抄録

学会誌

論文抄録

『医学教育』53巻・第4号【抄録】2022年08月25日

前号へ | バックナンバー | 次号へ

INDEX	
特集	<p>西協する患者と向き合うための医療者教育はどう実現するか？</p> <p>1. マギル大学医学部のカリキュラム開発の歴史と "Healer (癒し人)"の役割を担う医療者の育成</p> <p>…土屋 静馬, 恒藤 暁, 三好 智子</p>
特集	<p>西協する患者と向き合うための医療者教育はどう実現するか？</p> <p>2. "マインドフルネス"は医療者教育で、どう活かされるのか？ —マインドフルネスを活用した医療者教育の世界の潮流—</p> <p>…土屋 静馬, 恒藤 暁, 三好 智子</p>
特集	<p>西協する患者と向き合うための医療者教育はどう実現するか？</p> <p>3. Whole Person Care教育の目的と方法</p> <p>…土屋 静馬, 恒藤 暁, 三好 智子</p>
特集	<p>西協する患者と向き合うための医療者教育はどう実現するか？</p> <p>4. マインドフルネスにある深い気づきと臨床的調和を育む</p> <p>…土屋 静馬, 恒藤 暁, 三好 智子</p>
特集	<p>西協する患者と向き合うための医療者教育はどう実現するか？</p> <p>5. 患者の西協へどのように応答するか</p> <p>…土屋 静馬, 恒藤 暁, 三好 智子</p>
書評	<p>「Whole Person Care教育編—マインドフルネスにある深い気づきと臨床的調和」</p> <p>…武田 裕子</p>

URL: http://jsme.umin.ac.jp/journal/5304_mag.html

17

日本Whole Person Care研究会

【Whole Person Care 学術大会】

第1回	2020/8/1	京都大学	大会長	恒藤暁
第2回	2020/11/28	昭和大学	大会長	土屋静馬
第3回	2021/3/13	岡山大学	大会長	三好智子
第4回	2021/8/7	富山大学	大会長	三原弘
第5回	2022/3/12	京都大学	大会長	恒藤暁
第6回	2022/11/19	昭和大学	大会長	土屋静馬
第7回	2023/3/5	岡山大学	大会長	三好智子

【Whole Person Care 読書会】

第1回	2021/2/12	WPC実践編	第1章～第3章	担当：土屋
第2回	2021/5/14	WPC実践編	第4章～第6章	担当：三好
第3回	2021/9/10	WPC実践編	第7章～第9章	担当：恒藤
第4回	2021/11/5	WPC実践編	第10章～第12章	担当：三原
第5回	2022/2/18	WPC実践編	第13章～第15章	担当：土屋
第6回	2022/5/13	WPC実践編	第16章～第18章	担当：三好
第7回	2022/9/9	WPC教育編	第1章～第2章	担当：恒藤
第8回	2022/11/11	WPC教育編	第3章～第4章	担当：三原
第9回	2022/2/10	WPC教育編	第5章～第6章	担当：土屋

18

ホスピス財団HP



URL: <https://www.hospat.org/index.html>

19

妻と私が20代後半だった時、妻がサルコイドーシスを発症した。当時研修であった私は診断名はそうであっても急性で自然寛解するものであると信じたかった。

しかし、妻も私も強い恐怖感を覚えた。

「本当は悪性リンパ腫ではないだろうか?」、「本当に陰影は消えるのか」「慢性疾患に移行しないか」と次から次へと疑問が湧いてきた。実は私はサルコイドーシスという診断名を全く知らないわけではなかった。私自身も14歳の時にその疾患の診断を受けたのである。

その時のことをよく覚えている。その日はアイルランドの冬で、雨が鬱とうしく降っており、腹部に違和感を感じた。

診療所を出て、通り過ぎる人を見ながら、「この人たちは健康であるが、私は病人の仲間入りをした」、「人生は終わった」と思った。

Whole Person Care 「実践編」 (P2-3 改)

20

(そうであるから私の妻への心配は尽きなかった。)

ある日の日曜日、妻の病室を見舞った。周りにはあまり人がいなかった。静かにドアを閉め、見舞いの品であるシェリーの酒のボトルとグラスを二つ取り出し、二人でちびちび飲みながら、当時二人が気に入っていた小さなオランダ葉巻を1時間ばかりふかした。

それで二人の気分は良くなったが、サルコイドーシスの治療法としては勧められるものだろうか。もちろんそうではない。

しかし、当時の私たちにとっては正しい対応であったと思う。

Whole Person Care 「実践編」 (P2-3 改)

21

私は40代の時に中年の危機を経験し、臨床心理師にみてもらったことがある。

臨床心理師は母について話すように求めた。私の母は突然亡くなり、それが多少不可解であったので、それを含めて話し始めたところ、「実際に何が起きたと思いますか？」と尋ねた。しかし、その出来事について私の考えを話したところ、すぐに心理師は「あなたの『物語』は聞いたので、より重要なことについて話をしましょう」と言った。

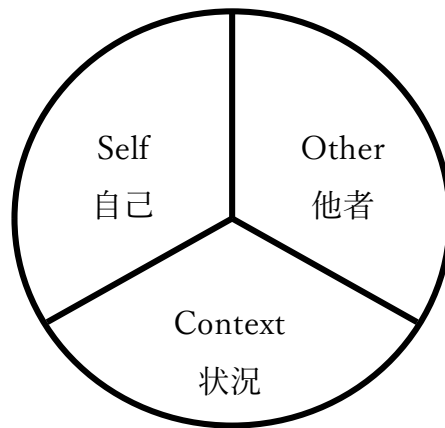
それは母の物語は前置きや導入に過ぎず、本題である重要なことや治療に進んでいくことをほのめかしていた。

私は話を遮られ、低く評価され、裏切られたように感じた。なぜなら、裸になった私の魂の一部である“物語”にしっかりと関わってかれることを期待していたからである。

Whole Person Care 「実践編」 (P131 改)

22

医療者として必要な気づき(マインドフルネス)



Virginia Satir

自己・他者・状況への気づき

23

意味の視点(マインドフルネス)から考える‘私’ とレジリエンス

- 職場と関係ない人と話す
- 職場と関係ある人と話す
- 日記をつける
- (瞑想により) 自己のあり方に気づく
- (以下、研究会で出た意見を追記)

24

“レジリエンス”どう訓練するか？

1. 自己・他者・文脈のあり方に気づく
(マインドフルネス)
2. その気づきを“言語化”する
3. 他者の気づきを傾聴する



自分も同じ“人”として、その人が
“意味”を言語化する過程を支える

25

Wounded Healer (傷ついた癒し人)



The Education of Achilles by Chiron, Pompeo Batoni (1746)

- ・私も“人”として苦悩する
- ・その苦悩は他者を通じて
言語化される
- ・私も“人”として
誰かの苦悩を支える
存在である

26